様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　４ 月　１ 日現在

機関番号：３７３０４
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ２１９４９

研究課題名（和文）韓国巫俗言説の形成過程に関する宗教学的研究：1990-2010年代を中心に

研究課題名（英文）The Development of Discourses on Korean Shamanism from the 1990s tp 2010s

研究代表者
新里　喜宣（SHINZATO, Yoshinobu）

長崎外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：９０８７９８６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は1990年代から2010年代までを中心に、韓国で巫俗に対する多様な視点が形成される過程を明らかにするものである。上記の目的のもと、主に巫俗に対する政治的な次元における言説を収集、分析する作業を行ってきた。1960年代以降、研究者の言説が巫俗の社会的位置を押し上げたことは確かだが、研究者の言説を利用し、巫俗とナショナリズムを接合させ、統治を円滑に進めようとした政治的な次元の言説も、巫俗言説の形成過程を捉える上で非常に重要である。そのため本研究では、1990年代から2010年代までを中心に、巫俗と政治とのかかわりを明らかにする作業を行ってきた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究を通して、韓国における巫俗の位相がより明確になったと思われる。韓国では一般的に、巫俗はまず迷信、あるいは前近代的な弊習として扱われることが多いが、同時に韓国文化の根源としても言及され、表面的には混乱した状況が発生している。報告者の研究は、これを言説の面から整理し、巫俗言説を体系的に理解しようとするものである。とりわけ本研究を通しては、政治的な次元に注目し、巫俗への肯定的な視点から、巫俗が批判される場面においても強い批判が提起され得ない構造を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the period from the 1990s to the 2010s and sheds light on the process by which diverse perspectives on shamanism were formed in South Korea. With the above purpose in mind, I have mainly been collecting and analyzing discourses on shamanism from a political perspective. Since the 1960s, it is true that the discourse of researchers has boosted the social position of shamanism, but there have also been political attempts to use researchers' discourse to combine shamanism and nationalism to facilitate governance. Dimensional discourse is also very important in understanding the formation process of shamanic discourse. Therefore, this research has focused on clarifying the relationship between shamanism and politics from the 1990s to the 2010s.

研究分野：宗教学

キーワード：シャーマニズム　巫俗　言説　宗教　韓国　祈福信仰　宗教概念

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

報告者は研究開始前、主に 1980 年代までの韓国巫俗（シャーマニズム）言説を中心に研究を進めてきた。本研究は報告者の研究をさらに進展させるため、1990 年代以降の言説にまで研究の範囲を拡大し、現代韓国における巫俗の社会的位相を理解しようとするものである。

２．研究の目的

本研究は、1990 年代から現在までを対象として、韓国社会で巫俗を文化・宗教と捉える認識がひろく共有され、それが巫俗を否定的に描く言説を抑制するようになる過程を明らかにすることを目的とする。

報告者の既存の研究により、1960 年代から 1980 年代までの間に、それまで迷信として社会から批判的に捉えられていた巫俗が、民俗学や宗教学を専門とする研究者、そしてムーダン（巫者）たちの言論活動によって、韓国社会で文化・宗教として受け入れられていく過程が浮かび上がってきた。本研究では報告者のこれまでの研究を継承し、1990 年代から現代を対象として、巫俗を迷信として捉える視点が後退し、巫俗が文化・宗教として確固たる地位を固めていく諸相を解明しようとするものである。本研究は、既存の人類学・民俗学的な巫俗研究を補完し、韓国近現代史の文脈から巫俗を理解する際の一助になるという意義を持つ。

３．研究の方法

本研究では当初、以下のような研究方法を想定していた。

主に二つの方法で研究を進める。一つ目の方法として、新聞（『東亜日報』『京郷新聞』）や学術誌（『韓国民俗学』『宗教研究』）などにおける巫俗言説を収集・分析する。報告者はこれまでの研究で、主に上記の媒体で研究者による巫俗言説が発信され、巫俗を民俗文化として捉える社会的認識が形成されてきたことを確認した。本研究では 1990 年代から 2010 年代までを対象とし、以上の媒体における巫俗言説の形成過程を浮き彫りにする。

二つ目に、ムーダン（シャーマン）への聞き取り調査も行う。ムーダンたちの視点は研究者と重なる部分もあるが、研究者が巫俗を民俗文化の範疇で理解する傾向がある一方、ムーダンたちは巫俗を宗教、信仰として捉えており、巫俗言説をより詳細に捉える上でムーダンたちの活動、彼らによって発信された言説は重要な資料となる。報告者は既に大韓敬信連合会という巫俗団体に所属するムーダンへの聞き取り調査から、1980 年代までのムーダンたちによる言論活動を調査してきた。今後の研究としては、韓国巫俗連合会という団体に所属するムーダンにもコンタクトを取り、聞き取り調査を行えるよう準備を整えているところであるので、聞き取り調査の対象を拡大し、1990 年代から 2010 年代におけるムーダンによる巫俗言説を捉える。

韓国では現在、ほとんどの刊行物や新聞がウェブ上で閲覧可能となっている。そのためウェブ上の資料に関しては学期中も積極的に時間を設けて調査を進めていく。他方、聞き取り調査に関しては韓国を訪問して調査を行う必要がある。聞き取り調査は夏休みと春休みに集中的に時間を設けて行う。また、一部ウェブ上で閲覧できない資料もあるため、現地調査をする際に国会図書館、国立中央図書館、ソウル大学図書館を訪ねて資料を収集する。

以上の研究方法のうち、一つ目の、新聞記事や学術誌の資料をもとに巫俗言説の形成過程を明らかにする、という点は、しかと行うことができた。これらの資料は日本にいながらも収集できるものが多く、海外渡航を必要としないという点が大きく作用した。これに対し、二点目の、ムーダンへの聞き取り調査は、研究期間の大半がコロナ禍によって韓国に行けなかったため、十分に行えなかった。聞き取り調査については報告者の今後の研究で補完していきたい。

４．研究成果

1990 年代から現代までの巫俗言説に対する調査から、巫俗を文化および宗教と捉える視点が社会でひろく共有され、迷信などの概念から巫俗を批判的に述べる言説が少数派になっていく過程が明らかになってきた。

2020 年度の成果である「韓国巫俗と政治：近現代史の文脈から」（『越境する宗教史』（上巻）、久保田浩他編著、リトン、2020 年 11 月）、2021 年度の成果である「『崔順実ゲート』の巫俗言説」（『宗教研究』81-2 号、韓国宗教学会、2021 年 8 月、韓国語論文）、2023 年度の成果である学会発表「大韓民国第 20 代大統領選挙における巫俗言説」（日本宗教学会、第 82 回学術大会、2023 年 9 月）では、政治的な次元からの巫俗言説を参照した。また、2022 年度の成果である研究発表「巫俗は『宗教』か、『宗教ではない宗教』か：祈福信仰、宗教概念、普遍的価値観とい

う桎梏」（韓国・朝鮮文化研究会、第 23 回研究大会、2022 年 10 月）では、政治的な内容も含めて、新聞や学術雑誌などの資料も参照しつつ、総合的な角度から 1990 年代以降の巫俗言説を考察できた。これらの成果においては主に、巫俗を迷信として捉える視点が韓国で厳然と存在する一方、巫俗を文化や宗教として捉える視点も確実に存在し、これらの均衡のもと巫俗が語られている姿を確認できた。

以上が、1990 年代以降の巫俗言説に関する調査報告となる。今後は、報告者がこれまで行ってきた、1980 年代以前の言説への調査とも照らし合わせて、巫俗言説に関する総合的な調査を行っていく予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 新里喜宣	４．巻 81-2
２．論文標題 「崔順実ゲート」の巫俗言説	５．発行年 2021年
３．雑誌名 宗教研究（韓国宗教学会）	６．最初と最後の頁 157-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 新里喜宣
２．発表標題 巫俗は「宗教」か、「宗教ではない宗教」か：祈福信仰、宗教概念、普遍的価値観という桎梏
３．学会等名 韓国・朝鮮文化研究会、第23回研究大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 新里喜宣
２．発表標題 大韓民国第20 代大統領選挙における巫俗言説
３．学会等名 日本宗教学会、第 82 回学術大会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計1件

１．著者名 久保田浩［ほか］編	４．発行年 2020年
２．出版社 リトン	５．総ページ数 480
３．書名 越境する宗教史　上巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関